

大子町中心商店街

(大子町商店会)

茨城県大子町

インバウンド

地域協働

新陳代謝

生産性向上

ポイント

商店街の若手有志グループ「らっしゃい・でえご隊」による 昭和レトロの創出が商店街に新たな魅力を生む。

基本データ

所在地	茨城県久慈郡大子町大子
人口	約 1.8 万人（大子町）
電話/FAX	0295-72-0176 / 0295-72-1483
会員数	35 名
店舗数	96 店舗（小売業 35 店、飲食業 22 店、サービス業 8 店、金融業 3 店、医療サービス業 7 店、その他 21 店）
商店街の類型	生活支援型
主な客層	高齢者、主婦 / 50 歳代、70 歳代以上

商店街概要

大子町は茨城県北西端に位置する山間部の町である。豊かな自然に囲まれた大子町は、「奥久慈しゃも」や「奥久慈りんご」、「奥久慈茶」、「こんにゃく」、「米」、「常陸大黒」など特産品が豊富である。大子町中心商店街は、大子町の中心部に位置し、国指定登録有形文化財に登録された建造物が 5 棟あるなど、レトロで懐かしい雰囲気を有した商店街である。人口減少や高齢化が進む大子町では、商店街でも高齢化や後継者不足により閉店する店舗が増加しており、空き店舗対策や後継者の確保等が課題となっていたが、平成 19 年に商店街の若手有志が「らっしゃい・でえご隊」を立ち上げ、活性化に向けた様々な事業に取り組んでいる。

取組の背景

「らっしゃい・でえご隊」による活性化作戦

大子町中心商店街では、商圈としている地域の人口減少や大型店との競合といった問題に直面し、商店の減少、空き店舗の増加が課題となっていた。現在営業している店舗でも、商店の後継者の確保が困難となっており、商店主の高齢化や後継者不在による閉店も増えることが予想されていた。このような状況のなか商店街にもう一度活気を蘇らせようと、平成 17 年に商店主たちからなる大子町商工会中心市街地活性化委員会が発足し、2 年間勉強会を実施してきた。その後、委員会が解散する際、引き続き商店街の活性化に向けて活動していこうと結成されたのが商店街の若手有志からなるグループ「らっしゃい・でえご隊」だ。平成 19 年から「らっしゃい大子百円街」を継続して開催し、各種イベントにも参加。商店街の魅力発信に努めてきた。平成 25 年に、今後の商店街の活性化の方向性を決すべく、商店街の利用者を対象にアンケート調査を実施した。その結果、「大子町中心商店街は昭和レトロな雰囲気が楽しめる」との声が多く寄せられた。この結果を受け、「昭和レトロな雰囲気」という魅力を活用した活性化策に取り組むことを決定。また、大子町は県内有数の観光地でもあることから、「昭和レトロな雰囲気」を観光資源として観光客を新たな顧客として獲得することを目指すこととした。

取組の内容

昭和レトロを生み出す「大子デパート」

「らっしゃい・でえご隊」では、「昭和のレトロな雰囲気を楽しめる商店街」を目指して、「大子デパート」プロジェクトに取り組んでいる。「大子デパート」という名称には、大子町中心商店街を、昭和のデパートのように、買い物を楽しむことができ、なおかつドキドキワクワクな体験もできる空間にすることで、「昭和のレトロな雰囲気を楽しめる商店街」にしたいという思いを込めた。

「大子デパート」プロジェクトは、①ノスタルジック演出事業、②たてものマップ制作事業、③ご当地グルメ事業、④もみじ植栽事業の 4 つで構成されている。

まず①は、店舗のファサードをレトロな外観に改装することで、「昭和のレトロな雰囲気」を演出するというものである。平成 30 年 1 月現在、7 軒が改装済み、2 軒が改装中だ。



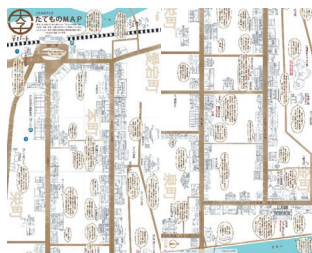
ノスタルジック演出事業 改装前例



ノスタルジック演出事業 改装後例

②は、商店街のまちなみをマップ化し、特徴的な建物を紹介することで商店街に興味を持ってもらうのが狙いである。また、まちあるきイベントの「まちなかタイムトリップ」を開催する際にもこれを活

用し、リピーターの獲得に努めている。



たてものマップ



まちなかタイムトリップの様子

③は、大子の特産品を使用した商品を開発・販売するものである。現在、奥久慈しゃもを使った「しゃも玉焼きそば」と奥久慈産のリンゴを使った「ばいアップルスティック」の2品を開発・販売中だ。「ばいアップルスティック」はまちあるき中に食べ歩きができる商品として開発した。



「しゃも玉焼きそば」と「ばいアップルスティック」



④は、商店街に隣接する「永源寺（もみじ寺）」に毎年たくさんの人が訪れることを踏まえ、永源寺に訪れた人を商店街にまで誘引するためのきっかけづくりとして実施している。

さらに、これら「大子デパート」プロジェクトに取り組んでいるなかで、「もっと大子のことを知りたい」という声が多数あったことから、「らっしやい・でえご隊」では、新たに「大子商売（あきない）博物館」事業を実施。これは、商店街内に古写真や古道具を展示することで、大子町中心商店街の歴史や魅力を発信するという企画。展示会場には商店街内の空き店舗や営業店舗を利用することで、空き店舗の活用や営業店舗への誘客にもつながるよう工夫している。

取組の成果

新たな客層の獲得、個店の意識変化も

ノスタルジック演出事業で改装を行った店舗の売上は増加傾向。客層にも変化が見られ、レトロな雰囲気求めてカメラを片手に商店街を散策する人が増加している。商店主にも意識の変化があり、住居内の空きスペースを「大子商売博物館」の展示スペースとして使用しても良いという人や、独自にレトロな改装を行う人も出てきている。また、レトロな建物を活用した新規出店が増加傾向にあり、新たな賑わいを創出している。

さらに、昨年度開催された茨城県北芸術祭では、大子町中心商店街もイベント会場となり、会期中、大子町に約17万7千人が訪れた。今後、大子町中心商店街でも新たなアートイベントを実施する予定で、さらなる新たな客層の獲得が期待されている。

実施体制

「らっしやい・でえご隊」は商店街の店主を主として10名がコアメンバーとなり活動を行っている。代表が事務を主に行い、その他のメンバーが商店街の各地区を担当する連絡員となって各商店と連携。イベント時にはメンバーが協力して開催準備、片付けを行い、当日のスタッフは地域おこし協力隊やボランティアスタッフを募集し対応している。広報は、大子町商工会にチラシ作成への協力、大子町役場にはイベント情報として役場HP、SNSへの掲載、観光協会や各施設においてはチラシの配布を協力してもらうなどの連携体制ができています。また、商工会からは勉強会での専門家の派遣も得ている。

今後は大子町役場と連携し空き店舗の活用も進めていく予定。地域おこし協力隊とも連携し、まちなかフォトスポットの作成も実施予定だ。

キーパーソンからのコメント



大子町商店会
らっしやい・でえご隊
隊長 小崎 武広

現存するものを有効活用した商店街づくり

商工会や商店の方々の協力のもと、百円商店街や外部への出店等、大子の魅力、商店の魅力を知ってもらう為の活動を行ってきました。その中で気付かされたのが大子町中心商店街の魅力は「人」と「建物」からなるレトロな雰囲気だということ。調査してみると空き店舗の建物は、大分傷んでおり、資料となる古写真等も高齢化により失われつつありました。「大子デパート」を通して古き良きものを護ることで、大子町の魅力の向上や新規出店などにもつながると考えています。

「大子デパート」の目指すもの

大子町は豊かな自然に囲まれ、また、関東一ともいわれる寒暖差のある地域です。

その厳しい環境の中で生産される「奥久慈しゃも」「奥久慈りんご」「奥久慈茶」「こんにゃく」「漆」などは品質も高く、おいしいものも豊富です。

レトロな雰囲気が楽しめ、大子のいいもの、魅力がたくさん詰まった「大子デパート」をつくっていきたいです。



「大子デパート」
のロゴマーク